

復 命 年 月 日	令和8年10月5日（月）
出張年月日	自 令和8年8月7日（金） 至 令和8年8月7日（金） 1日間 宿泊 無
用 務 地	大分県日田市、福岡県筑紫野市
用 務	広報広聴委員会行政視察
て ん 末 （ 資 料 添 付 ）	○大分県日田市：8月7日（金）10時～11時30分 ・テーマ：子ども議会について、議会だよりについて ○福岡県筑紫野市：8月7日（金）14時30分～16時 ・テーマ：小学生議会見学会について、議会だよりについて
	※ 広報広聴委員会各委員の報告・所感については別紙のとおり

広報広聴委員会 行政視察報告書

委員長 西田晃一郎

期 間：令和8年8月7日（金）

視 察 先：大分県日田市、福岡県筑紫野市

研修内容：議会だより、子ども議会について

【大分県日田市：議会だよりについて】

1. 概要

①人口：58,795人（27,689世帯）

②議員定数：21人

2. 議会だよりの発行状況

①発行回数：年回4回 ※定例会終了1ヶ月以内

②部 数：約27,000部 ※全世帯配布

③ページ数：12～16ページ（表紙・裏表紙カラー）

④担 当：議会報編集委員会：5人 ※各会派から1名選出

⑤編集方針：（1）委員会の報告は、委員会で議論伯仲した議案などに特化するなど、読み手の立場に立って工夫する。

（2）一般質問の報告は、読者の視点に立ち、読みやすく、また、分かりやすい表現を用いる。また、写真かイラストを必ず使用する。

（3）表紙は「人」を中心に、決めている。また、委員自らが取材し写真を撮り記事にしている。

3. 発行までの流れ

①期間：委員会を2回開催。閉会から約30日間で発行。

②委員会の内容

・第1回：スケジュールの確認、掲載内容の協議。

・第2回：委員による原稿の最終チェック

4. 構成やレイアウト

①基本構成：一般質問は、1人半ページ。共通のレイアウト。

②写真：委員が取材し、撮影している。

③デザイン：ある程度決めている。業者に任せることもある。よって、業

者が変わると戸惑うことがある。

④挿絵やイラスト：フリー素材を使用。

⑤特に工夫している点：（１）表紙と編集後記は、編集委員が順番で担当し自らが取材と撮影をしている。

【大分県日田市：子ども議会体験会について】

1. 目的

議会体験会を開催することで、若い世代に対し、議会への関心を持ってもらうと共に、議会の仕組みや役割などを広く内外にアピールし、議会の見える化を促進する。

2. 対象

市内に在住または在学する、原則として小学校４～６年生とその保護者

12組程度

3. 実施時期

2月頃

4. 実施主体

日田市議会

※内容や詳細は、議会改革特別委員会で決定し適宜、議会運営委員会へ報告

5. 実施内容

1) 議会の役割の説明

2) 議場見学

3) 本会議の体験

① 議長役、質問者役などの役割を決め、シナリオに沿った本会議体験を実施すること。

②議員になりきり、質問を実施すること。

③一旦中断し、場所を変え、賛成及び反対の討論を実施すること。

④討論終了後には、採決を実施すること。

4) 意見交換 ※議員に対する質問など

6. 事前準備：役割を３つの班に分担し行う。

1) 募集班

- ①募集方法や募集内容を作成
- ②ホームページの作成
- ③応募者への連絡、通知文書の内容などの作成
- 2) 内容班
 - ①シナリオの作成
 - ②議会の役割の内容作成
 - ③意見交換会、質問内容の作成
- 3) 当日班
 - ①当日のスケジュールの作成
 - ②会場の準備
 - ③参加者へのサポート、マスコミ周知・対応

7. チラシ等：別添資料参照

【福岡県筑紫野市：議会だよりについて】

1. 筑紫野市の概要

- ①人口：106,388人（49,393世帯）
- ②議員定数：22人

2. 議会だよりの発行状況

- ①発行回数：年回4回
- ②部数：全世帯
- ③ページ数：20～24ページ（フルカラー）
- ④担当：広報委員会：6人名）
- ⑤編集方針：テーマや紙面構成など、12項目について定めている。
- ⑦基本姿勢：（1）「親しみやすく、惹きつける」広報紙を目指す。
（2）市民が手にとって読んでいただけるよう、表紙の題字や写真を重要ポイントとする。
（3）文字やレイアウトにも配慮し、専門用語には解説をつけるなど、わかりやすい広報紙になるよう心がける。
とする。
（8）一般質問は、当局の1回目の答弁書をもとに各自が作成する。

3. 発行までの流れ

- ①期間：閉会から約40日間、計4回の委員会を実施

②会議の内容

- ・第1回：紙面構成、掲載内容決定、スケジュールの確認
- ・第2回：常任委員会、一般質問の原稿確認
- ・第3回：常任委員会、一般質問以外の確認
- ・第4回：校正

4. 構成やレイアウト

- ①基本構成：一般質問は、提出期限を守らなければ掲載しない。
- ②写真：表紙は、テーマを決めている。「聴く 見る 動く チーム議会」
- ③デザイン：「親しみやすく、惹きつける」を心がけている。
- ④挿絵やイラスト：表紙の題字は、若いうちから政治や選挙に関心を持ってもらうため、市内の中学生や高校生に依頼している。
- ⑤特に工夫している点：常に改良の意識を持ち続けている。

【大分県筑紫野市：議会見学会について】

1. 目的

議会を見学できる機会をつくり、早い機会での政治や選挙への関心を持ってもらい、議会を身近に感じてもらうこと。

2. 対象

市内の小学校5、6年生（保護者同伴）各22名（議員定数）

3. 実施時期

7月頃：午前と午後2回開催

4. 実施主体

日田市議会

※企画、運営は、議会改革推進会議（幹事会・全体会）で協議

5. 実施内容

- 1) 議会の役割の説明
- 2) 委員会見学
- 3) 市議会クイズ
- 4) 議員に質問
- 5) 議場で記念撮影

6. 周知と募集方法

- ①校長会を通して各小中学校に依頼
- ②ホームページ、SNS 等に掲載
- ③報道機関に情報提供
- ④保護者連絡用アプリ
- ⑤各学校にポスター掲示

【まとめ】

今回の行政視察では、大分県日田市及び福岡県筑紫野市を訪問し、「議会だより」と「子ども議会」に関する取組について調査を行った。

両市に共通して感じたことは、議会の情報を「発信する」だけではなく、市民に「読んでもらう」「議会を身近に感じてもらう」ために、常に市民・読者の視点に立って広報活動を工夫しているということである。

日田市では、議会だよりの一般質問において、読み手の視点に立ち、分かりやすい表現を用いるとともに、写真やイラストを必ず使用するなど、手に取ってもらうための工夫がなされていた。また、表紙については「人」を中心とし、編集委員自らが取材・撮影を行っている点も印象的であった。

筑紫野市においても、「親しみやすく、惹きつける」広報紙を基本姿勢として、表紙の題字や写真、文字やレイアウト、専門用語の解説など、読者が読みやすい紙面づくりを徹底していた。さらに、中学生や高校生に表紙の題字を依頼するなど、若い世代が議会や政治に関心を持つきっかけづくりにも取り組んでいる。また、子どもたちへの取組では、日田市が議長役や質問者役などを体験し、実際に質問、討論、採決まで行う「子ども議会体験会」を実施していることが参考となった。

筑紫野市では、小学校5・6年生を対象に、議会の役割説明、委員会見学、市議会クイズ、議員への質問、議場での記念撮影などを行っており、子どもたちが議会をより身近に感じるための工夫がなされていた。

伊万里市議会においても、今年度、広報広聴委員会を中心に子ども議会を開催したところであり、今回の視察で得た知見は、今後の取組を考える上で大いに参考となるものであった。特に、子どもたちが議会を「見学する」だけではなく、実際に議員の立場を体験し、自分の考えを発表し、他者の意見を聞くという経験は、議会を身近に感じてもらうだけでなく、主権者教育の観点からも重要であると考えられる。

今回の視察を通じて、議会広報は単なる情報提供ではなく、市民と議会をつなぐ重要な役割を担っていることを改めて認識した。

今後、伊万里市議会においても、今回得られた先進事例を参考にしながら、議

会だよりについては「分かりやすく、読みたくなる」紙面づくりを、子ども議会については「参加して楽しい、議会を身近に感じられる」取組をさらに検討していきたい。

また、広報と広聴を別々のものとして捉えるのではなく、議会から市民へ伝える「広報」と、市民の声を議会が受け止める「広聴」を一体的に進めることで、市民により開かれ、信頼される議会を目指していくことが重要である。

今回の視察で得た知識や気づきを委員会内で共有し、伊万里市議会の広報広聴活動のさらなる充実につなげていきたい。

広報広聴委員会視察 所感

R8. 8. 19

児玉不二子

◆日田市議会の視察では、子どもたちに議会を身近に感じてもらうための「子ども議会体験会」と、議会活動を市民に分かりやすく伝える「市議会だより」の取り組みについて、具体的な実施方法や工夫を学ぶことができた。

今回の視察を通して、広報広聴活動は「情報を発信する」だけではなく、「市民に届き、理解され、さらに関心を持ってもらう」ことが重要であると改めて感じた。特に、子どもたちや若い世代に議会を身近に感じてもらうためには、体験型の取り組みや SNS、QR コードなど、時代に合った手法を積極的に取り入れる必要がある。

今回学んだ先進的な取り組みを伊万里市議会の実情に合わせて検討し、議会をより身近に感じてもらえる広報広聴活動の充実と、市民との接点を増やす取り組みにつなげていきたい。

◆筑紫野市議会の視察では、「小学生・中学生議会見学会」と「議会だより」の取り組みについて説明を受け、大変有意義な学びを得ることができた。

今回の視察を通して、広報広聴活動において最も大切なのは、「議会から伝える」だけではなく、「市民にどう伝わるか」「市民がどう受け止めるか」という市民目線であることを改めて認識した。

伊万里市議会においても、今回得た知見を生かし、議会だよりのさらなる読みやすさ・親しみやすさの向上を図るとともに、子どもたちや若い世代が議会を身近に感じ、政治やまちづくりに関心を持つきっかけとなる広報広聴活動につなげていきたい。

行政視察報告書

令和 8 年 8 月 24 日

広報広聴委員会委員長様

広報広聴委員会委員 梶山 太

・視察日：令和 8 年 8 月 7 日（金）

・視察先：大分県日田市議会

1. 子ども議会（体験会）について

(1) 取組の目的と対象

＊目的：若い世代に議会への関心を持ってもらい、議会の仕組みや役割を広く発信して「議会の見える化」を促進している。また、主権者教育の観点も考慮し、体験型の子ども議会を目指している。

＊対象：市内在住・在学の小学校 4 年生～6 年生とその保護者（原則親子ペア、約 12 組）。保護者を議場内に同席させることで、大人の視点で議会活動を見てもらい、子どもへの安心感や関心を提供するなどの工夫がなされている。

(2) 運営及び準備体制

＊主導體制は、議会改革特別委員会で、その中に「募集班」「内容班」「当日班」の 3 つの班（各 2～3 名程度）を設け、フットワーク軽く準備を進めている。

＊各班で練った案を月 1 回の特別委員会で集約し、最終決定は議会運営委員会（議運）で意思決定を行っている。事務局任せではなく、議員が主体的に動く体制が確立されている。

＊参加募集の工夫は、学校経由のチラシ配布（児童数分を印刷し校長会等で協力依頼）に加え、申込の手間を減らすため QR コードを活用した簡易応募システムを導入。また、議会だよりへの掲載や、議員による呼びかけも実施している。

(3) 当日の実施内容と流れ

＊全体構成（約 2 時間。コンサート開催時は、3 時間。）

1. 議会の役割説明・見学：全員協議会室で議員がスライドや資料を用いて分かりやすく説明。
2. 本会議体験（議場）：シナリオに基づき、議長役・質疑役（子ども）や市長役・答弁役（議員）を分担して擬似本会議を開催。
3. 討論・意見交換（別室／全員協議会室）：緊張を和らげ意見が出やすいよう別室へ移動し、仮議案（例：鼓笛パレードのライブ配信について等）に対する賛否の討論を実施。
4. 採決（議場）：再び議場へ戻り、採決のやり方を体験。
5. 意見交換会：子ども議員から議員への率直な質疑応答を実施。

＊企画の工夫（議場活用）：令和 8 年度の第 2 回開催時には、オープニングイベントとして地元特産の「日田杉バイオリン」による議場コンサートを開催し、市民公開の場としても活用された。これにより、開催時間も 1 時間延長している。

(4) 参加者の反応・アンケート結果

＊保護者・子どもの両方に好評であり、「楽しかった」「議会の役割が分かった」等の意見が多数を占めた。

＊一方で「自分たちで自由に質問や発言をしてみたい」という意欲的な意見もあり、今後の検討課題として議論されている。

2. 議会だより（議会報）について

(1) 位置付けと発行概要

＊根拠規定は、地方自治法第 100 条の 12 に基づく協議の場として「編集委員会」を設置している。

＊構成・発行については、各会派から 1 名ずつ選出された 5 名の委員で構成。年 4 回（定例会後 1 ヶ月以内に発行）、全戸配布（約 27,000 部、行政広報誌と同配）している。

＊ A4 判規格で、12～16 ページとしている。

(2) 紙面づくりの工夫

＊表紙のこだわりは、「人を題材にする」方針のもと、地域で活躍する団体や個人を編集委員が持ち回りで取材・撮影し、親しみやすい誌面を心掛けている。

＊レイアウトは、「手に取って、読んでもらうこと」を最優先とし、文字数を抑えて写真やイラストを必ず配置する構成を徹底している。また、一般質問のページは新聞の見出し風に整理されている。

＊デジタル連携については、誌面内の QR コードから市議会 HP の議員紹介ページ（個人 SNS や HP へのリンク含む）へ誘導する仕組みを構築している。

(3) 編集・発行スケジュール

＊議会開会中の第 1 回編集委員会から始まり、一般質問終了後に議員・委員会へ原稿執筆を依頼。定例会閉会后、校正（3 回）を経て約 1 ヶ月で納品・配布する非常にタイトな運用を行っているのには、非常に感心する。

3. 視察を終えて（まとめ）

1. 子ども議会について

①準備段階における班分け（募集・内容・当日）の導入。議案・シナリオのテンプレート化を進め、特定委員の負担軽減とスムーズな引き継ぎ体制を整える。

2. 募集方法の工夫

②「保護者同席スタイル」の採用や、スマホ対応の QR コード応募の導入により、参加ハードルを下げる。

③学校現場（校長会等）や保護者への確実な情報伝達ルートの確立。

3. 議場の有効利用

④子ども議会開催時の「議場コンサート」など、地域の文化・特産と連携したイベントを併催することで、親しみやすい議会発信を検討する。これは、是非実施したい。

4. 議会だよりについて

⑤「手に取ってもらえる広報誌」を目指し、写真やイラストの積極活用を心掛ける。QRコードを活用したウェブ・動画との連携をより一層推進する。

視察日：令和8年（2026年）8月7日（金） 視察先：福岡県筑紫野市議会

1. 議会見学会（主権者教育）について

（1）18歳選挙権の導入に伴い、早い段階から政治や議会に関心を持ってもらう「主権者教育」の一環として実施している。中学生（平成28年～）および小学生（平成29年～）を対象にスタートし、現在に至っている。

（2）当初は広報委員会で企画運営を行っていたが、現在は「議会改革推進会議（全議員22名で構成）」が主体となり、企画及び運営を担当している。議員全員が受付、誘導、説明、進行などの役割分担を担っている。

（3）プログラム内容と工夫：

①議場の雰囲気を感じられるよう、議長席での記念撮影、議会の仕組み・役割の説明（大型モニターやスライドを活用）、市議会クイズ、模擬委員会の傍聴や実際の議案審査の再現などを実施。

②児童・生徒が理解しやすいよう、専門用語（「一般財源」「補助金」「傍聴」など）を、わかりやすい言葉や平仮名表現に置き換えた読みあげ原稿を用意。

③参加者から事前に受け付けた質問に対し、議員が壇上から直接回答。中学生から出た地元の安全対策（歩道整備等）の質問が、

実際の地元陳情や市長への要望書提出、さらには県の事業改善へとつながった事例もある。

④周知方法と課題については、保護者連絡アプリや学校の校長会を通じた周知、SNS やポスター等を活用。保護者同伴を原則とする小学生対象の開催では、保護者の日程調整や周知ルートの確保が課題となっているため、土曜日開催や周知方法の改善を模索している。

2. 議会だよりについて

(1) 会派選出の広報委員会(6名)が中心となり、年4回(定例会後)発行。全戸配布等を含め約45,000部(カラー・ユニバーサルデザインフォント使用、20～24ページ)を発行している。

(2) 市民目線(読者目線)に立った誌面づくりの工夫について

①文字ばかりで難解な誌面を避け、必ず1記事につき写真やイラストを配置。一般質問ページには目を引くキャッチコピー(見出し)を設けている。白黒印刷では伝わりにくい情報が多いため、フルカラー化を継続活用している。

②専門用語(「所管事務調査」等)をかみ砕いた表現に変更している。一般質問の内容が市の「第7次総合計画」のどの政策に関連しているかをアイコンや色分けで明記し、市民へのわかりやすさを目指している。

③地元の身近さや読者層の拡大を狙い、市内の中学校・高校の生徒(書道部や美術部等)に表紙画像や大事の「筑紫野」の作成を依頼(ローテーションで実施)している。生徒本人や保護者、学校関係者にも読まれるきっかけとなっているのが興味深い。

④議員ごとの質問や原稿作成については、質問題目数に応じた文字数制限を厳格に設定し、専用の入力フォームやチェックリストを活用。締切を厳守しない場合は、掲載しないルールを徹底している。これにより、スムーズな編集と議員間の公平性を保っている。

⑤紙面上の QR コードから議員ごとの一般質問動画へ直接アクセスできることを可能にしている。また、今後の作業の効率化を目指し、他自治体の AI 活用事例や WEB 化推進の動向調査など、継続的な誌面改革を行っている。

3. 視察を終えて（所感）

1. 子ども議会（主権者教育）の運営体制と工夫

①全議員が参画する体制により、特定の委員会に負担が集中せず、全議員的な取り組みと運営を行う仕組みが参考となった。

②易しい言葉に置き換えたスライドや読み上げ原稿を心掛け作成しておくことが肝要と感じている。これにより、毎回の準備負担を軽減し、参加者の満足度を高める工夫することに繋がる。

③子どもたちの意見や質問を「体験」のみで終わらせず、常任委員会の調査テーマや市長への政策提言・要望へつなげる仕組みづくりは、主権者教育の実効性を高める上で非常に有効であると感じている。（今後の展開で、回数を重ねることが肝要）

2. 議会だよりの編集と発信力の向上

④一般質問や審議内容が市の総合計画とリンクさせ、どの項目に対応しているかを明記することで、行政施策と議会議論のつながりが一目で分かり、市民の関心を惹きつけやすくなる。

⑤市内校の生徒等に題字や表紙の制作を依頼する取り組みは、若い世代やその保護者層に対し、議会だよりを手に取ってもらう良き工夫と感じる。本市でも検討の価値が高い部分である。（児玉副委員長に提案済み）

⑥議員側の提出ルール（専用入力フォームやチェックリスト）を標準化及び厳格化することで、編集作業の迅速化と議員間の公平性の確保を両立させたい。

【日田市議会視察所感】

日田市議会では、若い世代に議会への関心を持ってもらうとともに、議会の仕組みや役割を広く伝え、「議会の見える化」を進めることを目的として、こども議会体験会を実施している。対象は、原則として市内に在住又は在学する小学4年生から6年生までの児童とその保護者であり、親子で参加する方式となっている。

今回の視察で特に印象に残ったのは、日田市議会の取組が、子どもから市政への要望を聞くことだけを目的とせず、議会の仕組みそのものを体験してもらう主権者教育として組み立てられていたことである。質問と答弁だけではなく、議案の説明を受け、考え、最後に採決するところまで経験することで、議会が地域の課題について話し合い、市としての意思を決定する機関であることを、子どもにも分かりやすく伝えていた。

また、現職議員が子どもたちと直接向き合い、事前のリハーサルを含めて主体的に運営している点にも意義を感じた。子どもに議会を身近に感じてもらうためには、制度の説明だけではなく、議員の姿や考え方が見えることが重要である。親子参加方式は、保護者にも議会への関心を持ってもらえるため、「議会の見える化」という面でも有効な取組であると考えている。

伊万里市においても、子どもの意見や提案を聞くことに加え、議案審議や採決の体験、議員との少人数での意見交換などを取り入れることで、より深い学びにつながると考える。その際には、伊万里焼、観光、地域産業、防災など、本市の特色や身近な課題を題材とすれば、子どもたちが自分の暮らす地域について考えるきっかけにもなる。今回学んだ内容を参考に、子どもたちが議会や市政を身近に感じ、将来のまちづくりへの参加意識を育む取組について、今後さらに検討していきたい。

【筑紫野市議会視察所感】

今回の視察で特に印象に残ったのは、子どもに議会の仕組みを説明するだけでなく、身近なテーマを通して委員会での話し合いを具体的に見せていた点である。子どもにとって、議会や政治は難しく、自分たちの生活から遠いものと感じられやすい。しかし、題材が身近なテーマにすることで、議会での審議が自分たちの生活環境や将来に関わっていることを、自然に理解できる構成となっていた。

また、市議会クイズや議員への質問を取り入れ、子どもが受け身にならないよう工夫されていることにも意義を感じた。特に、議員に直接質問できる機会は、議員の役割や人柄を知り、議会への心理的な距離を縮める上で効果的である。保護者同伴とすることで、子どもだけでなく子育て世代にも議会への理解が広がる点も、議会広報として大変参考になる。

伊万里市においても、議場を見せることに加え、学校施設、防災、給食、通学路、地域交通など、子どもが日頃から感じている課題を題材として、委員会審査の流れを分かりやすく再現する方法が考えられる。子どもの自由な意見を聞くことと、議会がどのように課題を審議し、結論を出すのかを学ぶことを組み合わせれば、より実践的な主権者教育となる。さらに、参加者アンケートの公表や、子どもから出された意見をその後の議会活動にどう生かしたかを報告する仕組みまで整えることで、継続性と実効性のある取組になると考える。

広報広聴委員会行政視察報告書

令和8年 8月 10日

川添 智徳

1. 日田市議会(大分県日田市)

日田市議会の子ども議会開催については、市内に在住または在学する小学校4年生～6年生とその保護者12組24名程度を募集し、一昨年度と昨年度の2回実施していた。特に興味深かったのが保護者同伴にしている点と、事前準備の段階で「募集班」「内容班」「当日班」の3班編成にしている点であった。3班編成で協議を同時進行することにより、本来より短い時間で準備可能ではないかと感じた。

また、議会だよりについては各会派からの代表5名で編集を担当していた。紙面づくりで工夫しているところは、表紙と編集後記を編集委員会の委員が順番で担当しているところであった。内容は「人」を中心に「各種団体」など委員が自ら取材し、記事を考え、写真を撮り表紙を決めていた。今後の本委員会においても参考になるのではないかと感じた。

2. 筑紫野市議会(福岡県筑紫野市)

筑紫野市議会の子ども議会開催については、小学生議会見学会と中学生議会見学会を、それぞれ近年で4回ずつ開催していた。以前は執行部主導で中学生議会が一度だけ開催されたが、それ以来は実施されていないとのことであった。また、土曜日開催にしている理由は、小学生で保護者同伴を要件としており、土日でないと参加が難しいため。中学生は部活や塾など習い事があるため、なるべく負担が少ない日に開催すべき、ということであった。伊万里市議会広報広聴委員会でも土曜日開催は検討されたが、市役所が休みなので夏休み期間の平日となり、自身もその方がよいと思った。

また、議会だよりについては各会派より6名の編集委員にて作成。まず、議会だより「筑紫野」の大事を、市内の中高生に依頼し書いてもらっていた。伊万里市内にも書道部がある中学校、高校はあるので、是非一度依頼してみてもどうかと思った。また、各議員の一般質問の掲載については原稿提出期限までに未提出の場合は、議会だよりに掲載しない、という取り決めがあるのが興味深かった。理由は原稿提出の締め切りを守ってもらうためであり、今後本委員会においても採用してよいのではないかと思った。

令和 8 年度 伊万里市議会広報広聴委員会行政視察 所感

令和 8 年 8 月 17 日

松尾 伸人

令和 8 年 8 月 7 日 (10:00～12:00) 日田市議会 (大分県)

(説明内容)

1. 子ども議会について

- ① 小学校高学年対象のこども議会体験会を毎年実施し、今年度 (11 月予定) で 3 回目となるが、企画から実施まで議会改革特別委員会で行っている。
- ② 子ども達の緊張感を少しでもやわらげるべく、本会議場ではなく、全員協議会室で行っており、大人の目線でも議会を見てもらいたいため、保護者は児童の隣に座る形で実施している。
- ③ 募集の工夫としては、学校にお願いに行ったり、議員本人が個人的なお願いをしたり、QR コードからの読み込みで、参加申し込み受け付けを簡単にできる様にしたりしている。
- ④ 令和 7 年度のこども議会体験会の議案は「鼓笛パレードをライブ配信することについて」であり、シナリオに従って、子ども達が質問し、議員が答弁を行う形で進め、採決している。
- ⑤ 議案の採決後に、市議会や議員に対するこども議員からの質問や意見を聞く意見交換会を実施している。
- ⑥ こども議会も 3 回 1 区切りと考えており、今回までは小学生対象としているが、「中学生対象にしては？」との意見もあるので、来年度は改選となる事もあり、現時点では、どうするかは未定。
- ⑦ 参加者へのお土産として、杉材の名札と議会の模様を録画した DVD を渡す様にしている

2. 議会だよりについて

- ① 編集委員は各 5 会派から 1 人ずつ出てもらって、5 人で構成しており、任期は 2 年としている。
- ② 毎号、編集委員会の 1 回目は議会開会日で、掲載内容の協議とスケジュール確認を行う。
- ③ 表紙は市内で頑張っている団体を紹介する意味で掲載しており、色は年 4 回の各号で変える様にしている。
- ④ 一般質問の掲載で、イラストや写真を必ず使う様にしており、バランスを重視している。(文字だけでは読みづらく、結果として読んでもらえないとの考え。)

- ⑤ 一般質問題目の下部にあるQRコードは、議員名簿の議員プロフィールのページにつながる様にしている。

(所感)

子ども議会について、議会改革特別委員会が企画・実施をされている点は、全議員が「主権者教育として、議会全体で実施しているもの」との意識と積極性を高める事につながっていると感じたが、我々の場合は、主権者教育は広報広聴委員会の管轄であり、まず第1回を終えたところでもあるので、次回は全議員への子ども議会のアピールの仕方や説明の工夫をすれば、議員全員に当事者意識を持たせる事ができるのではないかとも思った。

議会だより発行に関しては、大体、同じ様な編集、発行のスケジュールだが、表紙の各号で色を変える点については、我々も一考の余地があるのではないかと思った。

令和8年8月7日（14:30～16:20） 筑紫野市議会（福岡県）

(説明内容)

1. 議会見学会について

- ① 議会を身近に感じてもらう事で、政治や選挙に関心を持ってもらうべく、平成28年12月に中学生議会見学会、平成29年8月に小学生議会見学を開催、以降1年に1回ずつ開催して来たが、令和元年～令和4年は、コロナ禍により開催を見送り、令和5年12月の小学生から再開した。
- ② 議会見学会への参加状況については、中学生が5中学校から、中断前22～23人、再開後の令和7年12月が35人、小学生が中断前32人～46人（児童、保護者で約半数ずつ）、再開後の令和5年12月が46名、令和8年7月が34名。
- ③ 日程の設定について、小学生は保護者同伴が要件なので、土曜か日曜で設定、中学生は部活や塾などを考慮し、できるだけ負担が少ない日で設定している。
- ④ 議会見学会の企画・実施は、開始当初は広報広聴委員会、再開後は議会改革推進会議（全議員22名で構成）で行っている。
- ⑤ 議会見学会の周知、参加者の募集方法としては、校長会を通じて各小中学校に依頼、議員HP・SNS等に掲載する他、報道機関に情報提供、また学校内では、以前はチラシ配布を行っていたが、現在は行っておらず、保護者連絡アプリ、各学校へのポスター掲示する事で浸透を図っている。

- ⑥ 内容としては、議長選出、議会の役割説明、委員会の再現：議案「スマートフォンの適正使用の推進に関する条例について」で、提案内容は議員が説明、質疑、賛成・反対討論を中学生が行う。その後、議員とのお話し会、議場見学等を行っている。

2. 議会だよりについて

- ① 全ページフルカラー、12～24ページ、6名の広報広聴委員会で編集・発行している。
- ② 一般質問の原稿に関しては、各議員が定められたルールに従って、設定された締切日までに提出する事にしており、提出がない場合は掲載しないという厳格な取り決めをしており、提出遅れはほとんどない。
- ③ 一般質問の題目が1つだと2段落、2つ以上は3段落と決めており、文字数がわかりやすいWordのフォームを作成している。
- ④ 題字は中学生にお願いしているが、その方が保護者の方も含め、より多くの方に見て頂けるとの理由からである。
- ⑤ 視察を行った取手市議会では、議会だよりにAIを活用して数分で作成・編集されているとの事であったが、筑紫野市議会としてどうして行くかは、今後の検討課題であると考えている。
- ⑥ Facebook、Instagramに関しては、内容は議会と議会事務局で分担して作成し、投稿は議会事務局で管理している。

(所 感)

議会見学会に関しては、概ね、日田市議会と同じ様な内容であり、我々の今後の子ども議会開催に大いに参考になるものであると感じた。特に、日程設定に関しては、我々の今回の振り返りでも再考すべき点として挙がると思われるが、土、日を基本に考えて行くべきであろうと思った。

議会だよりに関しては、一般質問の1題目に一つイラストの掲載を要件とする等、こちらも日田市議会と同じく、文字とのバランスを考慮されているとの事であったが、一般質問に関しても、我々としても、もう少し、意識する必要があるかも知れないと感じた。(全体ページの制約はあるが)

また、議会だよりの編集に関して、我々もタブレット端末導入が予定される中で、これを有効に活用し、委員会での編集作業の負担軽減策を考えて行きたいと思った。

以上